



アヒル隊長

森里川海が生む 明るい未来



森里川海と目指すみんながシアワセになれる社会

今の私たちは、食べものやエネルギーに困らない、便利な生活を送っています。しかし、石油やガスなどの地下資源に頼る生活は、ずっとは続きません。つい100年ほど前まで、私たちは暮らしに必要な全てのものを森里川海から得てました。地域で助けあうしくみをつくり、お祭りなどの文化も育んできました。昔の知恵と技に最新の技術をくみあわせ、森里川海が持つチカラを活かした新たな社会をみんなで作っていきましょう。



木を燃料に 地域経済が回る

木はもともと優れたエネルギー源。間引いた木や木くずを燃料にすれば、地域でエネルギーを自給できます。地域に仕事が生まれ、外から買う燃料をへらせます。



人の集まる 楽しい地域になる

美しい森里川海は観光の大きな魅力です。森里川海の恵みに支えられたくらしに惹かれ、観光客や移住する人がふえると、地域が元気になります。



安心安全な 衣食住を支える

化学肥料や農業に頼らない有機農法で育てられた食べものや素材は、食とくらしの安心安全を提供してくれます。



オンリーワン産品で 地域に誇り

日本には、地域ならではの農林水産物がたくさんあります。魅力あふれるオンリーワンの特産品は地域経済を元気にし、そこでくらす人に誇りをもたらします。



“自然力”で防災・減災

健全な森が土砂崩れを防ぐ、サンゴ礁や砂浜が波の力を弱める、湿原が一時的に洪水を受け止めるなど、森里川海がしっかりつながった流域は、災害にも強くなります。

日本の森里川海はいまドウナッテいるの？

実は、森里川海から恵みを引き出しにくくなっています。例えば、林業や農業に携わる人がへったことで森や里が荒れ、災害の発生や野生の動物が田畑を荒らすなどの被害がふえています。また、ダムや堰によって川から流れこむ栄養分や土砂がへったことで、海の幸が姿を消しています。このままだと、安心安全やおいしい食べものといった森里川海の恵みが失われ、私たちのくらしが成り立たなくなります。



森の手入れが すすまない

スギやヒノキなどの人工林は、定期的に間引きや伐採をしないと荒れてしまいますが、林業の不振で担い手がへり、災害に弱い森林がふえています。



シカやイノシシが ふえている

里山の利用がなくなったことで、シカやイノシシが人里に接近しやすくなり、田畑を荒らす被害がふえ、地域のくらしが脅かされています。



魚がすみにくい 川になっている

災害防止のためにダムや堰がつくられ、護岸もコンクリート化されました。川と海を行き来する魚にとって、すみにくくなっていました。



自然の中で遊ぶ 子どもがいない

子どもはのちの不思議やくらしの成り立ちを、森里川海を駆け回って知り、仲間とのきずなを深めるものです。そうした子どもも今や“絶滅危惧種”です。



魚や貝、海藻が へっている

干潟や砂浜の埋め立て、川から流れこむ栄養分の減少、地球温暖化による海水温の上昇などが原因で、食卓に欠かさない魚や貝、海藻が姿を消しています。



フクフクちゃん
ダイビングが大好きな男の子



アヒル隊長
頼りになるみんなの隊長



アヒルママ
とっても優しいみんなのママ



フカフカちゃん
実は泳げないかわいい女の子